

社会福祉法人 楽山会  
椎の実子供の家  
令和元年度 事業報告

令和元年度は新保育所保育指針が施行され2年目となった。新指針の重要なねらいは「乳児保育の充実」と「幼児期の教育機能の向上」である。これまで保育所が大切にしてきた、子どもの心身の発達にとって重要な0～2歳児の保育の充実が、新指針では明確に位置付けられた。

0歳～2歳児の乳児保育は、担任との愛着関係を土台に、個別配慮によって生理的欲求を満たしながら、成長発達にあわせた関わりを心がけた。幼児保育、特に5歳児クラスでは両園でまとめた「アプローチカリキュラム(就学前カリキュラム)」に基づき、指針が示す幼児期に育てたい10の姿をイメージしながら、就学を意識した活動を行った。幼児期における教育の重要性は、当園の特色であるモンテッソーリ教育においてすでに理論づけられ、その実践を積み重ねている。

社会福祉法人は社会貢献の役割として、地域に開かれた保育園を目指し、変わりゆく地域社会のニーズに積極的に応えていくとともに、実習生や中学生の職場体験・ボランティアの受け入れなど、次世代育成支援を継続して行っている。卒園生もその中に含まれていることも多く、「第二の家」としての役割を担っている。

職員教育では、専門性や質の高い保育・教育が行えるよう計画的に外部研修に参加させ、人材育成に努めた。特に東京都が実施するキャリアアップ研修には重点をおき計画的・積極的に参加させた。また内部研修は、外部講師を招いた研修の他、教師資格を持つ職員を中心としたモンテッソーリ教育研修会を行った。モンテッソーリ教育が目指す子どもの自立への援助は、保育と乖離したものではなく、保育の中で生きるよう、理論と実践が連動するような研修計画を作成し実施した。

働き方改革が進む昨今、保育業界も他人事ではなく、保育士等が子どもと関わるという本来業務に専念できるよう、事業のありかたを見直すことが求められている。特に令和2年度は園舎建替事業が本格化する時期にあたる。平成30年度末より保育支援システム導入を初めとした、事務効率化や業務省力化に今後も引き続き取り組む。

令和元年度 重点目標

- I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「学びに向かう力」を育む保育の推進
- II 幼児教育機関として、より高い専門性を目指した人材育成と職員の定着化
- III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- IV 地域子育て支援の充実と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する
- V 椎の実子供の家園舎建替事業

I 生活や遊び、運動、表現活動を通して「学びに向かう力」を育む保育の推進

乳幼児の発達を踏まえ、個々の子どもの興味や欲求に応じた遊びを確保し、子どもが主体的に取り組める魅力ある教育・活動の工夫やモンテッソーリ教育の精神を主体とした自立への支援を行った。基本的な生活習慣の確立、遊具や道具を使った運動遊び、年齢や発達に応じたルールのある集団遊びを経験させ、楽しみながら体づくりを行い、人と関わる力を身につけられるよう努めた。異年齢の縦割り保育の中で、助け合いながら集団生活を過ごし、他者と共存して生きるための力である協調性や社会性を育んだ。

また就学教育前の実践として、9月から5歳児だけで活動する時間を増やし、1月からは保

育室を分け遊びや学びを共にすることで、縦割り混合クラスで過ごすのとは違った連帯感や仲間意識が芽生えた。

また大沢地域の自然を活用し、園外散歩の機会を充実させた。散歩では、武蔵野森公園の固定遊具や、調布自由の広場の芝山で遊ぶなど体を使った遊びも楽しみ、神代植物公園にも積極的に出かけて行った。散歩は保育士が連携し、異年齢クラスなど多様なグループ編成を組んで行った。

音楽や造形などの表現活動も大切にした。日常的にピアノを弾くことで、季節の歌や唱歌を歌うなど音楽に親しみ、覚えた歌を自然に口ずさむようになった。造形では季節行事にまつわるテーマを中心に、年齢にあった内容を計画的に行った。

4、5歳児を対象とした囲碁教室の取り組みは4年目となった。日本棋院よりプロ棋士を講師に招いてルールや勝敗のある遊びを楽しみながら、相手への敬意や挨拶などの礼儀作法も学ぶことができた。

## II 幼児教育機関として、より高い専門性を目指した人材育成

東京都保育士等処遇改善の一環として5か年計画で実施されている、キャリアアップ研修に対象者を優先的に受講させた。また各職員の希望を聞きながら、個別の研修計画を作成し実施した。本人の希望を管理職が把握することによって、実施される研修に対し、受講者の選定をマッチングさせやすくなった。一方園内ではOJTを実施し、これからの保育園を担う人材として成長していけるような指導體制を継続した。

昨年に引き続き、臨床発達心理士による発達相談を行った。保育士が特性のある子ども、発達に課題のある子どもへの適切な援助方法を学び、職員全員が一貫した対応ができるよう必要な援助方法を学ぶとともに保育実践を行った。その他大学講師を招き、園舎建替えに関連し保育と環境づくり、心理学、保育所保育指針の講義を開催した。

モンテッソーリ教育園内研修の充実のため、年間計画を作成し、有資格者を中心に講師を務め実施した。モンテッソーリ教員資格取得については教員資格取得のための研修費の一部を補助する制度を活用し、東京モンテッソーリ教員養成コースに2名、日本モンテッソーリ総合研究所の通信教育で1名が学んだ。2年課程のため令和2年度にも継続して受講予定である。

## III 衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。建物や設備の老朽化に伴い、思いがけない修繕などが生じたが、速やかに対応した。

5月に他県において、交差点で車同士の衝突事故が発生し、信号待ちをしていた保育園児の列に車が突っ込み、散歩中の園児と保育士が巻き込まれ、園児2人が死亡、9人が骨折などの重傷を負うという痛ましい事故が起きた。同じく保育に携わるものとして大きな驚きとともに心を痛めた事故だった。この事故を他人事とせず、大きな教訓として、散歩時の安全確保のためのマニュアル、散歩ルートなどの再確認を行った。それに加えて防犯対策として、警棒や催涙スプレーを散歩に常備できるよう整備を行った。

給食提供では誤食ゼロを目指し、検食簿を活用し複数人でチェックすることで目標を達成することができた。

令和2年2月頃からは、中国武漢市から拡散した新型コロナウイルス感染症が日本においても拡大し始め、保育所における新たな感染症対策を要する事態となった。感染経路が接触感染、飛沫感染であることや、呼吸器感染症として重篤症例や死亡例がみられたことから、厚生労働省、東京都、三鷹市の見解に基づき、感染拡大予防措置を行った。園での活動内容や行事の在り方、地域交流事業、一時預かり事業などが、中止や実施規模縮小となった。職員の健康管理

や感染予防対策もあわせて行った。年度末までに園児・職員ともに感染者はいなかった。

#### Ⅳ 地域子育て支援の充実と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する。

年間を通じて、一時預かり事業の利用者が定員4名を満たし、一定の家庭の定期的な日が多かった。利用理由の多くは待機児や、専業主婦家庭のリフレッシュ、兄弟姉妹の学校・幼稚園行事等であった。保護者が子育てを負担に感じているように見受けられる場合には、地域事業担当者や他職員が積極的に声をかけるなどし、相談先としての安心感を持てるよう働きかけた。

未就園児のいる家庭には、地域活動のお知らせである「しいのみクラブニュース」を通して、園庭開放の利用者増加に繋げていった。「高齢者との交流」や「小学生との交流」は、これまで大切にしてきた特色ある事業として継続して行うことができた。

3月は新型コロナウイルス感染拡大による三鷹市の要請に基づき、地域事業の休止、一時預かり事業は就労や緊急を要する家庭を対象として実施した。近隣幼稚園が休園となり、就労している保護者の支援に対応できた。

10月の大型台風時の運動会の日程変更や、地域活動の休止・変更については、電話で問い合わせがある他、ホームページでの情報発信を行ったことで、地域への周知につながった。

保護者との連携については、行事での保護者ボランティア活動を「保護者サポーター」と名称を変更し、夏祭りや運動会、餅つきなどの行事の準備や片付け等に参加していただいた。特に運動会では、大型台風の接近により開催予定日が変更となる中、振替当日の天候悪化で急遽実施場所を変更することとなったが、多くの保護者の協力により無事実施することができた。これにより、職員と保護者とのあらたなコミュニケーションが生まれ、職員の当日・前日の業務軽減に繋がった。これらの活動を行いながら、園舎建替えにも保護者の協力を得られる協同していく。

#### Ⅴ 椎の実子供の家 園舎建替事業

平成27年度からの椎の実子供の家・第二椎の実子供の家の職員によるプロジェクトチームで進めてきた基本設計図面がまとまった。令和元年度は3回のプロジェクト会議を実施し、具体的な設備や保育の動線を踏まえ、基本設計に反映させた。特に行事におけるホールの使い方やステージの在り方、既存新棟とのつながり等を重点的に話し合った。また仮園舎での保育方法や環境についても話し合いを進めた。令和2年1月のクラス懇談会では「園舎建替え計画の概要」及び「新施設建設スケジュール」を保護者に配布し、令和2年度に開始する仮園舎への移行について説明し協力を依頼した。近隣住民へも同様の書面を配布し、今後の建替予定について周知した。令和2年3月には当園の設計を担当している、設計事務所が新設した世田谷区の保育園を見学し、建具の活用方法や小ホールの折りたたみドア等の仕様を確認することができた。地域交流事業は建替アドバイザーの佐藤将之先生より、他施設での環境設定や事業展開についてアドバイスを受けた。令和2年度にはより具体的な事業展開構想をまとめていくため、あらたに地域交流事業プロジェクト委員を選出した。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員90名（現員98名）

(2) 年齢別

- ① 0歳児 9名    ② 1歳児 16名    ③ 2歳児 17名  
 ④ 3歳児 18名    ⑤ 4歳児 18名    ⑥ 5歳児 18名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名
すみれ	1歳児	16名	16名	4名	副園長 1名
つくし	2歳児	17名	18名	4名	主任保育士 1名
あんず1組	3歳児	8名	9名	3名	保育士 18名 看護師(兼任) (1名)
	4歳児	8名	9名		
	5歳児	8名	9名		
あんず2組	3歳児	8名	9名	2名	栄養士 1名 調理師 2名 事務員 1名
	4歳児	8名	10名		
	5歳児	8名	9名		
合計		90名	98名	16名	非常勤職員 17名
一時預かり	満1歳～5歳	4名		2名	42名